

わちエダより

題字 吉田蒼月

Vol.53

2022年(令和4年)
12月発行

診療情報

耳鼻いんこう科

長引く鼻水・鼻づまり

風邪? コロナ? 花粉症?

それ、もしかして副鼻腔炎かもしれません

地域に太く深い根を張った、
心の通う診療

耳鼻いんこう科部長

三澤 逸人 医師

新和会の在宅ケア

「この地域に新和会があって良かった」と
思ってもらえる継続支援を

開催レポート

あんじょう健康大学で
小林一郎院長が講義

長引く鼻水・鼻づまり 風邪？ コロナ？ 花粉症？ それ、もしかして 副鼻腔炎かもしれません

長引く鼻水・鼻づまり。風邪やアレルギー性鼻炎と症状が似ているため間違いやすいのですが、長期間症状が続くときは他の病気が隠れているかもしれません。気になる鼻の病気について、耳鼻いんこう科専門医が解説します。

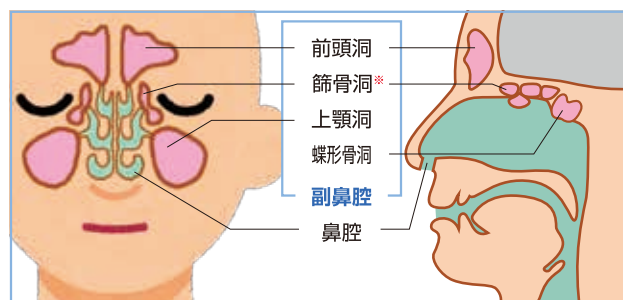
鼻の奥の空洞に炎症を引き起こす「副鼻腔炎」^{ふくびくうえん}

鼻の孔（鼻腔）の周りには**副鼻腔**と呼ばれる空洞があり、この空洞で炎症が起きている状態を**副鼻腔炎**といいます。

風邪などを引き金にしてウイルスや細菌が副鼻腔の粘膜に入り込み、中で増えたり、大気汚染やアレルギーが原因となって炎症が悪化します。鼻腔と副鼻腔は砂時計のようにくびれたボトルネック構造でつながっているため、一度腫れると通りが閉塞しやすく、粘液の排出がうまくいかなくなって炎症がこじれてしまいます。こうして起こるのが副鼻腔炎です。

副鼻腔の構造

左右に5つ、合計10の空洞が鼻腔とつながっています。



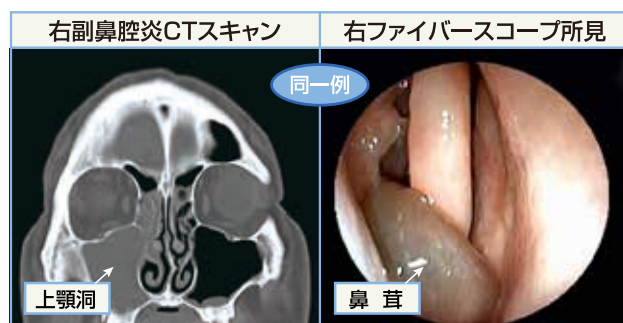
※篩骨洞はハチの巣構造をしており、正確には前と後篩骨洞にはっきり区切れ、さらにその中はたくさんの部屋に分かれています。

慢性化すると鼻に「ポリープ」ができることも

一般的に発症から1か月以内のものを**急性副鼻腔炎**、3か月以上持続する場合を**慢性副鼻腔炎**（別名蓄膿症）と呼びます。炎症が慢性化すると粘膜がむくみ、^{はなたけ}**鼻茸**といってキノコ状のポリープが発生して症状が悪化します。また副鼻腔の中に膿が溜まることで、鼻の周りや顔面が痛くなったり、頭痛などの症状が強くなることもあります。

副鼻腔炎の患者さんは全国で約100～200万人（60～120人に1人）いるといわれ、そのうち慢性副鼻腔炎の患者さんは約20万人と推計されており、ポピュラーな鼻疾患のひとつです。

副鼻腔炎の患者さんの鼻の中



（左）右の上顎洞に膿が溜まり、灰色に映っています。
（右）ファイバースコープで中をのぞいてみると、鼻茸が観察できます。



✓ 副鼻腔炎 簡単チェック

副鼻腔炎では、以下のような症状が起こります。
チェックしてみましょう。

- ☐ 鼻がつまる
- ☐ 花粉症の時期を過ぎても、鼻症状がなくなる
- ☐ 色のついた鼻水がドロっと出る
- ☐ 鼻水がノドの方に下りてくる
- ☐ 痰がノドにへばりつき、苦になる
- ☐ 口臭や自分の鼻に嫌な臭いがある
- ☐ 顔面がむくんだり、痛みがある
- ☐ 頭痛や頭が重い感じがある



鼻の症状だけでなく炎症が起きる場所によって多様な症状が現れます。複数の項目に当てはまる方は、副鼻腔炎の可能性あります。

手ごわい新種!? 好酸球性副鼻腔炎

こうさんきゅうせいぶくびくうえん

副鼻腔炎の中には、従来の薬物療法や手術を行っても再発を繰り返す治りにくいタイプがあります。このタイプは細菌感染などを原因とする副鼻腔炎とは異なり、免疫細胞のひとつ、好酸球が異常に増えることから**好酸球性副鼻腔炎**と呼ばれるようになり、欧米では副鼻腔炎の半数以上、わが国では2～3割を占め、近年増加傾向がみられています。

好酸球性副鼻腔炎は気管支喘息や難治性の中耳炎を合併することが多く、国の指定難病にもなっており、病態に合わせた特別な治療が必要です。

✓ 好酸球性副鼻腔炎 簡単チェック



好酸球性副鼻腔炎では、
以下のような症状が起こります。

- ☐ 鼻がつまる、かんでもスッキリしない
- ☐ においがあまり感じられず、食事がおいしくない
- ☐ 黄色いニカワ状の鼻水が、へばりついてかみにくい
- ☐ 鼻茸ができています
- ☐ 気管支喘息やアスピリン喘息を合併している
- ☐ 中耳に水が溜まる

「風邪が長引いているかな?」「花粉シーズンが過ぎても鼻症状が治らない」と思ったときは要注意。専門医に相談を

風邪やアレルギー性鼻炎と間違いやすい副鼻腔炎。しかし放置して重症化すると治療に時間がかかりますし、鼻茸を取り除く手術が必要になることもあります。また、集中力の低下や寝不足を招いて、日常生活に支障をきたすこともあります。

副鼻腔炎はファイバースコープ、X線・CT・MRIなどの画像検査、場合によっては血液検査や病理検査をしないと詳しい診断ができません。長期間鼻症状が持続するときは耳鼻いんこう科専門医を受診し、的確な診断と治療を受けることが大切です。



2022年4月に部長が交代し、7月より鼻・副鼻腔疾患に対する内視鏡手術を開始するなど診療内容の充実を図っています。副鼻腔炎にフォーカスし、その治療の特色をご紹介します。

FOCUS ① 患者さんに負担の少ない短期入院での「内視鏡下鼻・副鼻腔手術」を行っています。

細菌などの感染による副鼻腔炎の場合、軽症のうちなら通常は抗生物質の服用、鼻洗浄、ネブライザー療法などによって症状は改善します。

鼻の中に鼻茸ができてしまったり、約3か月の保存療法でも症状の改善がみられない場合には、手術を検討することになります。

副鼻腔炎の手術というと、昔は「怖い、痛い」というイメージがありました。現在は痛みと出血の少ない内視鏡手術が可能であり、重症度にもよりますが、当院では通常2～5日の短期入院で実施しています。

内視鏡下鼻・副鼻腔手術の特長

- 傷が小さく、出血や術後の痛み、腫れが少ない。
- 術後の回復が早く、短期間で退院でき、スムーズに日常生活に復帰できる。



鼻の孔から直径4mmの細い内視鏡と細長い手術器械を入れ、鼻茸や病変部を除去します。副鼻腔には脳や眼といった重要な構造が隣接しているため、手術には高度な技術が必要ですが、当院では内視鏡手術の豊富な知識と経験をもつ医師が手術を行います。

FOCUS ② 治りにくい好酸球性副鼻腔炎に、先進的な薬物療法を導入しています。

一般的な慢性副鼻腔炎は、抗生物質と内視鏡を用いた手術でほぼ完治しますが、好酸球性副鼻腔炎は抗生物質の治療効果が乏しく、手術をしても再発しやすいのが特徴です。この副鼻腔炎には全身的なステロイド内服が有効ですが、長期服用は免疫機能の低下や骨粗鬆症などの副作用のリスクがあるため、避けた方がよいとされています。

新たな治療薬として、喘息やアトピー性皮膚炎の治療薬に用いられてきた生物学的製剤「デュピクセント」が、好酸球性副鼻腔炎にも適用されるようになり、その有効性に注目が集まっています。

当院でも2022年度より、既存の治療で効果が不十分な好酸球性副鼻腔炎の患者さんに対する「デュピクセント」を用いた治療が可能になりました。



自己注射するペンタイプの治療薬。好酸球性副鼻腔炎に関わるインターロイキンという炎症物質の働きを抑えることで炎症を鎮め、症状の改善効果が期待できます。長年の鼻づまりや再発を繰り返す鼻茸にお困りの患者さんがいましたら、ご相談ください。

2022年4月に前任の山田一美医師よりバトンを引き継ぎ、八千代病院耳鼻いんこう科部長に就任しました三澤逸人と申します。前任の名古屋大学医学部附属病院と名古屋医療センターでは、めまい外来や内視鏡下手術の症例を多数手掛けてまいりました。4月より活気のある西三河地域、その中で地域に根差した医療を行っている八千代病院に赴任でき、大変嬉しく思っています。

着任以来、患者さんお一人おひとりに最適な個別化医療を提供できるよう耳鼻いんこう科の診療機能の充実を図ってまいりました。今回ご紹介した慢性副鼻腔炎に対する内視鏡手術やデュピクセント自己注射の治療などはその一端です。

また、痛みや出血の軽減といった基本を大前提として、通院・治療に伴う時間的な制限や負担を極力軽減し、学業やご家族の介護などで長く入院できない方が、ご自身のスタイルに合わせて治療することができるよう、テーラーメイドの診療体制も整えています。

耳・鼻・のどの専門の枠にとらわれず、国内外の学会活動で培った幅広い知識と磨いてきた技術で、心の通う治療を心掛けてまいります。この地域ではまだ根っこのない新人ですが、これから地域に太く深い根を張っていこうと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



Doctor's
Introduction

Dr. Hayato MISAWA

みさわ はやと
三澤 逸人 医師

1983年 東京医科歯科大学医学部卒業

1988年 名古屋大学大学院医学系研究科修了

<所属学会・資格>

日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
日本耳科学会
日本めまい平衡医学会

日本頭頸部癌学会
補聴器相談医
舌下免疫療法講習修了
緩和ケア研修修了

当院の
耳鼻いんこう科で
扱う主な疾患

鼻・副鼻腔

- 副鼻腔炎
- アレルギー性鼻炎
- 鼻中隔湾曲症
- 鼻骨骨折

耳

- 聴覚障害(難聴・耳鳴り)
※補聴器相談も行っています。
- 真珠腫性中耳炎
- 慢性中耳炎
- 先天性耳瘻孔

口腔・咽喉頭

- 扁桃炎・扁桃病巣感染症
- 急性喉頭蓋炎
- 声帯ポリープ
- 舌・唾液腺疾患
- 嚥下障害

平衡・神経

- めまい
 - 顔面神経麻痺
- 回転性めまいがある場合には、脳神経外科と連携し原因検索を行います。

耳鼻いんこう科サイトが新しくなりました。

患者さんに分かりやすく丁寧な説明を心掛け、耳鼻の病気や治療の情報を充実させています。ぜひご覧ください。



耳鼻いんこう科
サイトへ

「この地域に新和会があって良かった」と 思ってもらえる継続支援を

救急・急性期から回復期、慢性期、そして在宅ケアまでを継続して支援する
〈スーパーケアミックス〉を展開する新和会。

やちよだよりでは、これから数回にわたり「在宅ケア」にスポットを当て、
その機能や特色についてご紹介していきます。



話

社会医療法人 財団新和会
介護事業部 統括課長

小久保 充

命を救う
病を治す

発 症

高度急性期病院

八千代病院

急性期病棟

地域
包括ケア
病棟

回復期
リハビリ
病棟

療養
病棟

入所サービス

介護老人保健施設さとまち

入所 | ショートステイ

退院

通所系サービス

短時間
通所リハビリ
テーション

老健さとまち
通所リハビリ
テーション

八千代
リハビリデイ
サービス彩

生活の場



かかりつけ医

通 所



ケアマネジャー



訪 問



訪問系サービス

八千代
訪問看護
ステーション

訪問
リハビリ
テーション

ホーム
ヘルプ
八千代

訪問
栄養指導

生活サポート
地域包括支援センター

支える
寄り添う

About SHINWAKAI

概要

救急・急性期から在宅ケアまで医療・介護を切れ目なく提供

病気やケガは治療をしたらそれで終わりということはありません。多くの場合、患者さんは急性期の治療を受け、回復期、生活期と段階を経て身体機能や日常生活を取り戻していきます。場合によっては後遺症が残り、退院後も継続して医療管理やリハビリが必要になることもあります。

そうした中で患者さん、ご家族が不安なく自宅での生

活に戻るためには、病院と在宅をつなぐ継続的な支援が必要です。私たち新和会は、機能の異なる4つの病棟をもつ八千代病院、そして老健を含む介護事業を展開。これら法人内の緊密な連携と、地域の医療機関、介護福祉施設とのネットワークを駆使することで、患者さん個々の病状やニーズに応じた継続支援を提供しています。

Feature

特色

法人内連携を駆使した、スピーディできめ細かな継続ケア

転院や退院後の生活への移行は、患者さんご家族にとって不安が大きいことだと思います。その不安を一つずつ取り除き、次のステージへとできるだけスムーズに移るお手伝いをするのが、介護事業部の役割です。

私たちの強みは、新和会という一つ屋根の下に、病院と介護部門が揃っている点にあります。患者さんの同意をいただいた上で、カルテ情報などを双方で共有できるため、治療経過や自宅復帰にあたっての課題が速やかに把握できます。また、必要に応じて患者さんの入院時から介護部門のスタッフが病棟を訪問し、病棟スタッフに退院に

向けたアドバイスや介護指導を受けることもあります。このような緊密な連携によって、お一人おひとりの状態に即した、よりきめ細かなケアが可能になります。

さらに、新和会の介護部門に配置されているスタッフのほとんどは病院での実務経験があり、疾患に対する幅広い知識と対応力を備えています。そのため患者さんの状態の変化を見逃すことなく、何かあれば適切に医療や必要な支援につなぐことができます。こうした点は、私たちの強みであり、質の高いケア、ひいては患者さんの安心につながるものと考えています。

Mind

マインド

人々の命と暮らしに寄り添い、ずっと安心を支える

新和会が介護事業に乗り出したのは、1997年と比較的早く、来たるべき高齢社会を見据えてのことでした。以来、法人内連携はもとより、地域の医療・介護福祉施設とのネットワークづくりに力を注ぎ、体制の充実を図ってきました。訪問看護・リハビリといった在宅ケアはもちろんのこと、在宅療養中に状態が急変したとき、あるいはご家族の休養のために一時的な入院が必要になったときなど、「在宅療

養中のもしも」に速やかに対応するしくみも整えています。

とりわけ高齢の患者さんの場合、医療と介護の両方のニーズを併せもつ慢性疾患を抱えた方が多く、医療に加えて介護・生活支援を一体的にカバーする“面”での支援が必要です。この地域に生きる人々の命と暮らしに寄り添い、ずっと安心を支え続ける。私たちはそんな存在でありたいと思っています。

介護事業部では各事業所がさまざまな工夫を凝らしながら特色のあるサービスを展開しています。新和会の在宅ケアについてより深く知っていただき、お役立ていただけるよう次号から各事業所の紹介をまいります。

どうぞ、ご期待ください。



『外科医が解説！ 分かりやすい乳がんの話』

“健康に関する正しい知識をもち、自分の健康は自分で守る”という意識を市民の皆さんに高めていただくために、安城市と当院、安城更生病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会が協同開催している市民講座「あんじょう健康大学」。ピンクリボン月間にあたる10月の第3講で、当院院長で外科医の小林一郎医師が『外科医が解説！ 分かりやすい乳がんの話』と題した講義を行いました。

乳腺を専門領域として長年乳がんの診断・治療に携わってきた小林院長。講義では早期発見のためのセルフチェックのポイントから治療法まで、その豊富な診療経験をもとに解説しました。

終了後のアンケートには「自己検診の大切さを改めて知ることができた。面倒に思わず、やってみようと思う」「親族に患者がいるので治療について知りたかった。治療過程がよく分かった」といった声が寄せられました。今回の講座を通して、市民の皆さんの乳がんへの理解が少しでも深まり、ブレストアウェアネス（乳房を意識する生活習慣）を心掛けるきっかけになれば幸いです。



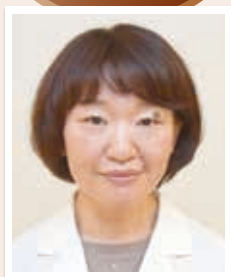
「乳がんは自分で見つけることができるがん。正しいセルフチェック方法を身に付けて、習慣にしてほしい」と参加者に呼びかける小林院長



毎月19日はピンクの日

乳がんのセルフチェックをはじめよう、続けよう！

セルフチェックの方法はコチラ➡

新任医師紹介
NEW FACES

麻酔科 医長
加藤 裕子(かとう ゆうこ)
2022年9月1日着任

患者さんが安全に手術を受けられるよう、術中麻酔管理だけでなく術前から術後まで一貫して積極的に寄り添い関わっていくことをモットーにしています。

術後の痛みはもとより、患者さんの手術に対する不安や緊張を和らげるよう努めてまいりますので、ご不明な点があればいつでもご相談ください。

【所属学会・資格】

日本麻酔科学会
日本小児麻酔学会

日本臨床麻酔学会
日本集中治療医学会

広報誌『やちよだより』は、
バックナンバーを含めて
WEBサイトでもご覧いただけます。

閲覧は
こちらから ➡

